

公開Ⅲ

国語科学習指導案

授業者 青木友彦
学年・学級 5年3組
日 時 1月29日(土)

1 単元 描写の効果に着目し、物語の魅力を引き出そう

(『大造じいさんとガン』 椋 鳩十 光村図書5年)

2 授業づくりについて

本学級の子どもたちは、物語「きつねのおきゃくさま」を読み、国語の授業開きとした。教科書に記載されていない物語を導入することで、次の展開を楽しみながら、叙述を基に登場人物や物語世界のイメージを膨らませながら読んだ。同じ展開が繰り返される中、きつねに関する叙述が少しずつ変化していることに気付いたり、そこから自分の経験を理由付けて想像を膨らませたりして読む子がいた。そこで、「なまえつけてよ」の学習では、本文の言葉を基に自分の知識や経験を理由付けすることで自分なりの読みをつくることを目標に取り組んできた。仲間の読みと比べることで多様な読みが生まれ、お互いの読みを確かめ合う活発な読みの交流となった。物語「注文の多い料理店」の学習では、2人の紳士が山猫軒の思惑に誘われていく様を楽しみながら読んだ。紳士の顔だけ元に戻らないこと、犬や案内人が最後再び登場したことに関心が集まり、どうしてこのように描いたのだろうと作者の意図に焦点を当てて読み進めることができた。そこで本単元を通して、作者の用いた描写に着目し関連付けて読むことで、今まで以上に読みが豊かになる愉しさや言葉にこだわって表現するよさといった言語感覚を養っていきたいと考えている。

物語「大造じいさんとガン」は、72歳の大造じいさんが愉快な話の内の一つ、ガン狩りの話を基に「わたし」が書いたという設定で始まる。「前置き」の結びに「山家のろばたを想像しながら、この物語をお読みください。」とあるように、表現豊かな描写が特徴的な作品である。それは、大造じいさんの息遣いが聞こえてくるかのような細かな行動描写と、ガンが悠々と飛ぶ様子や色鮮やかな想像を生む情景描写である。また、残雪に対する大造じいさんの思いが変化していく様子については心情描写を基に読みとることができ、3つの描写(行動・情景・心情)を関係づけて読むことで、立体感のある鮮明な想像を愉しむことができる作品だと捉えている。語りは基本的に大造じいさんの視点で描かれており、残雪についての描写の多くは「らしいのです」「ちがいません」と推測表現となっていることから、残雪は登場人物ではなく大造じいさんの対象物として位置付けられている。しかし、残雪は「頭領」「群れを率いて」「横一文字に」「堂々たる態度」等様々な描写で彩られており、読者にとって非常に魅力的な人物として印象に残るだろう。つまり、描写を関連付けて想像を膨らませながら読むことで、大造じいさんや残雪の人物像、物語世界の魅力を引き出すことができる教材といえる。

以上のことを踏まえ、本単元では、登場人物の魅力を引き出すことを軸に読む活動を設定した。まず、「前書き」から72歳の大造じいさんの魅力を捉え、35、6年前のガン狩りの話をなぜ「わたし」が物語にしたのかを想像することで、若かりし頃の大造じいさんの描かれ方に興味をもたせる。本編では、大造じいさんの描写から想像したこと書き込んだり話し合ったりすることで、狩りへの向き合い方や残雪への思いを捉える。そして、大造じいさんと残雪、どちらの方が魅力的に描かれているかについて語る場を設けることにより、相手にその人物の魅力が伝えるために様々な描写を関係付けたり言葉を意味付けたりする必然性をもたせ、自ら言葉に立ち止まって読み深めていけるようにしたい。このとき、大造じいさんや残雪の魅力等をロイロノート上に書き込み、全員の読みを共有できる場づくりをすることで、発言のない描写に着目したり新たな描写の捉え方に触れたりできるようにする。最後は、「4」から「前文」までの時間的空白に着目させ、読んできた人物像や関係を基にして、物語の続きを想像する活動を設定する。これは、様々な描写を関係付けることで人物像や世界観が豊かに想像できることを実感させることを企図している。

3 目標

- 行動・情景・心情描写を関係付けて読むことで、人物像や物語世界を具体的に想像できるという効果に気付くことができる。
- 人物像や物語世界の様子を具体的に想像するために、行動・情景・心情描写を関係付けながら読む活動を通して、描写の表現効果について考えたりまとめたりすることができる。
- 描写の表現効果に着目して読んだり仲間と読みを交流したりする活動を通して、進んで様々な描写を関係付けたり言葉を意味づけたりしようとしている。

4 学習の流れ（全8時間）

学習活動	教師の働きかけ	評価の視点
1次 大造じいさんの魅力を見つけよう		
1) 前書きを読み、大造じいさんの人物像を想像する。 2) 3) 大造じいさんの言動や情景描写を基に、狩りへの向き合い方や残雪に対する心情を想像する。 4) はやぶさと戦う残雪を見ている大造じいさんの言動や情景描写を基に、残雪に対する心情の変化を想像する。 5) 言動や情景描写を基に、残雪に対する心情が変化し見守る大造じいさんの心情を想像し、物語全体の感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・語りの言葉に着目することで、大造じいさんの人物像や囲炉裏を囲んで話をする情景を具体的に想像できるようにする。 ・大造じいさんや残雪、場面の様子についての描写に線を引き、想像したり考えたりしたことを書きこむことで、言葉に基づいた読みができるようにする。 ・「かねてより」「昨年の夏」や「思わず」「ほおがびりびり」等、狩りについての行動描写や「秋の日は美しく」などの情景描写に着目したときは、自分の経験や知識を想起させることで具体的に想像できるようにする。 ・心情描写に着目したときは、なぜその心情になったのか問いかけることで、行動や情景描写と関係づけて想像することができるようにする。 ・ノートの記述の内、特に伝えたい内容を共有ノート（ICT）に書きこむことで、発言で表出できなかった気付きや問いを共有し、自他の言葉の捉え方の違いによる読みの広がりや気付くことができるようにする。 ・ふり返りには、話し合った大造じいさんの心情について、考えの基になる描写と理由を書き表すようにし、自分の言葉の捉え方を整理できるようにする。その際、OPPの形でまとめ、着目した描写（行動・情景・心情）や捉え方（知識・経験・他の描写等）を他者と比べることで、自分の読み方や言葉の捉え方に気付くことができるようにする。 	1) 語りの言葉に着目し、狩人の話を聞く場面を想像している。 2) 3) 行動描写や心情描写等に着目し、狩りへの向き合い方や残雪に対する心情を想像している。 4) 行動描写や心情描写等に着目して、残雪に対する大造じいさんの心情の変化を想像している。 5) 描写を基に大造じいさんや残雪の人物像を想像したり、物語全体の印象や特徴を考えたりしている。
2次 大造じいさんと残雪の魅力について語ろう		
6) 大造じいさんと残雪の魅力について読み直す。 7) 大造じいさんや残雪の魅力について語り合う。 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ・「どちらが魅力的か」と対立関係を設定することで、「どの描写を、どう意味づけ」すればよいか必然性をもたせるようにする。 ・魅力を感じた場面や人物の描写に着目して、再度書き込みや他の描写と関係付けを行くことで、根拠に基づいて魅力を語れるようにする。 ・それぞれの立場からその魅力を語り合う活動を通して、様々な描写を基に魅力を引き出していることに気付くことができるようにする。 ・共有ノート（ICT）を活用して発言に出ていない描写に着目させること 	描 写を関係付けたり意味付けしたりして、魅力を書き表している。 7) お互いの意見を聞き合い、根拠となる描写に意味付けして、人物の魅力を書き表している。
3次 大造じいさんと残雪のその後に思いをはせよう		
8) 大造じいさんと残雪の関係を基に、翌年以降の関係を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語最後の大造じいさんの言動や前書きの昔話という設定に着目させ、読んできた人物像や関係を基に、物語の続きを想像できるようにする。 	8) 今まで読んできた人物像や関係を基に、物語の続きを想像している。

7 本時の学習（全8時間の第7時）

(1) 目標

○行動・情景・心情描写を関係付けたり意味付けしたりし、描写の表現効果について考えることができる。

○大造じいさんと残雪の魅力を引き出すために、再度描写の表現効果に着目し関係づけて読んだり仲間と意味付けしたりできる。

(2) 展開

学習活動	教師の働きかけ	評価の視点となる子どものあらわれ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">大造じいさんと残雪、どちらが魅力的に描かれているだろう</div>		
<p>1 本時の学習目標を達成するために、大造じいさんと残雪のどちらの立場で意見を述べるか決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のノートをふり返り、それぞれの魅力について考えたことを想起させることで、どちらの魅力について意見を述べていくか決定できるようにする。 ・ロイロノート上にどちらの立場か示して全体で共有し、意見を伝える相手意識を明確にすることで意見交流への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんと残雪の描かれ方に着目し、どちらに魅力を感じているのか自分なりに判断している。
<p>2 それぞれの魅力について意見交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ」「似ている」意見を引き出した後に「でも」「ちがう」意見を聞き合い読みの視点を焦点化することで、読みの交流を活性化させる。 ・それぞれの魅力について、「どこから」「どうして」と必要に応じて問い返し、考えの根拠や理由を引き出す。 ・行動描写、情景描写、心情描写を整理して板書することで、人物の描かれ方の特徴や描写同士の関係に気付くことができるようにする。 ・必要に応じて共有ノートの書き込みを紹介することで、表出していない描写や魅力を共有し、子どもの考えを広げて交流を活性化させる。 ・描写に対して「なぜこの言葉なのか」「他の言葉ではどうか」と問い返すことで、人物像や場面を具体的に想像したり言葉の捉え方の違いに気付いたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描写の表現効果に着目し、関係づけて読んだり仲間と意味付けしたりして、大造じいさんと残雪の魅力について考えている。
<p>3 どちらの方が魅力的に描かれているか、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流で聞いたことや読み直したことを基に自分で考えたことをまとめるよう声かけをする。 ・大造じいさんと残雪、それぞれの魅力と、なぜ〇〇を魅力的と判断したのかという理由を記述するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動、情景、心情描写を基に想像したことやその表現効果を理由にして、どちらの方が魅力的か判断し、書きまとめている。